

## 育ちの芽



副園長 奥村 綾

～2学期がスタートしました～

2学期がスタートしました。夏休み期間も、ホーム・のびのびの子ども達は、ほぼ毎日登園し、水遊びやセミ捕りなど、夏ならではの遊びを思い切り楽しみました。

ホーム・のびのび以外の子ども達にとっては、緊急事態宣言で夏期保育が中止となり、長い長い夏休みとなりました。感染拡大が続く中、おうちで過ごす時間が長く、保護者の皆さんにとっては、大変な日々だったのではないのでしょうか。

約1ヶ月半ぶりに幼稚園に登園した子ども達。中には、園のリズムを取り戻すまでに時間を要することもあります。朝泣いて登園している子もいますが、また、すぐに園での生活を思い出し、元気に登園できるようになりますので、気長に見守ってくださいね。

緊急事態宣言が続く中、感染不安を抱えながら迎えた2学期。近隣でも、臨時休校をしている小・中学校がありますし、本園でもいつ臨時休園になってもおかしくない状況は続きます。

保護者の皆さんの中には、

『登園させることに不安があるので欠席する。』『緊急事態宣言中は幼稚園を休ませる。』

『幼稚園には行かせるが、園で子どもがどのように過ごしているか不安で仕方がない。』等、各ご家庭で、さまざまな思いがあると思います。お家で過ごす子ども達の様子も大変気になりますので、お電話をかけさせていただいた際には、元気なお声を聞かせてくださいね。

2学期開始に向けて、さまざまな感染対策について、職員で再確認しました。大人ができる感染対策の強化、子どもにも理解できる感染対策など、一つひとつを見直し、子ども自身が感染対策を意識できるように、これまで以上に保育の中に取り入れています。

例えば、トイレや手洗い場では、分散して使用することの改めての声掛けや、咳エチケットの表示を見ながらの再確認、教師が手洗い・消毒を率先して行う姿を、園児に見せることで、意識づけに繋がっています。

咳をしたときの飛沫の様子をイラストで伝え、改めて知った子ども達は、「すごい飛ぶねんなー」とびっくりしていました。飛沫の様子を理解したようで、うがいをし

た後に、そーっと排水溝のところに、水を吐く年少さんの姿が見られました。

手洗いについても再確認し、しっかりと手を洗った後に、「透明のバイキン取れた？」と先生に手を見せに来る姿も見られました。

友達と楽しく会話しながら食べる楽しい給食の時間も、今は『黙食』という形をとらざるを得ない状況にあることも、子ども達に伝えています。小声で話す姿も見られますが、できるだけ静かに食べようと意識するようになっています。

また、冷房使用中も換気窓を開け、常に扇風機を回すなど、最も重要な感染対策の『換気』についても、引き続き徹底して行っています。

マスク着用に関しては、窒息や熱中症のリスク等の観点や、年齢による個々の管理能力の差等により、園内において、園児のマスク着用を義務付けることはできませんが、2学期に入り、マスクを着用して登園する園児が増えていますので、朝の活動や歌を歌う際、カードゲームや話し合いを行う場合等、着用を促しています。

ご家庭でも、着用の仕方や外した時の始末の仕方等(マスクポーチに入れる、かばんに入れる、ポケットに入れる等)お声掛けのご協力よろしくお願いします。

遊びの発展、継続等、子どもの動きは制限することはできないため、うきうきタイムでは、思い思いに遊べる環境をさらに充実させ、子どもがいろいろな場所で過ごせる環境を整えることで、結果的に密が避けられるようにしています。

これから運動会に向けての活動も取り入れていきますが、さまざまな制限があることから、内容的にも時間的にも『子ども主体で考えていくこと』に重点をおくよりも、子どもの思いを取り入れながら、『先生と共に楽しく取り組めるもの』として、また、お家で過ごしている園児達が、登園した時にも一緒に楽しめるように、内容も工夫しながら進めていきます。

今後も、感染収束のめどが立たず、心配や不安は尽きることはないと思いますし、教育保育の必要性和感染対策の必要性の狭間で、まだまだ模索は続いていきますが、“コロナ禍だから仕方がない”ではなく、“コロナ禍だからこそできること”に目を向け、子どもと共に過ごせる時間を大切に保育していきたいと思ひます。